

平成25年度 決算のご報告

# 納付金が大幅に増加しましたが、黒字決算でした

健康保険組合連合会が発表した全国の健康保険組合の平成26年度予算早期集計は、経常収支で3,689億円の赤字となり、高齢者医療制度創設以降、7年連続の赤字となる見込みです。

組合財政を圧迫する要因は、高齢者医療制度への支援金・納付金の急増にあります。平成27年度以降団塊世代全員が前期高齢者へ移行することにより、今後ますます納付金が増加することは確実で、ますます厳しい財政運営を強いられることが見込まれます。

健保組合としては、制度間の公平を理由とした国保への財政支援の拡充など、国の財政責任を健保組合などに転嫁することに断固反対するとともに、健保財政逼迫の最大の要因であり、現役世代に過度に依存する現行の高齢者医療制度を構造的に見直すよう、国に求めてまいります。

こうした状況の中、当健保組合の平成25年度決算がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

## ◆◆◆基礎数値◆◆◆

(平成26年3月現在)

被保険者数： 男 2,038人  
女 782人  
合計 2,820人

平均標準報酬月額： 432,469円

総標準賞与額：4,071,061千円  
(年間合計)

被扶養者数： 3,243人

## 一般勘定（健康保険）

### 収入 被保険者数・総標準賞与額の減による減収

収入面では、平均標準報酬月額が増額したものの、被保険者数・総標準賞与額が減少したため、保険料収入が前年度より2億1,009万円の減収となりました。

そのため、繰越金を1億9,256万円繰り入れて収入不足を補いました。結果、収入総額は18億7,359万円となりました。

### 支出 再び前期高齢者納付金が増加

医療費として支払われる保険給付費は、前年度より2億1,597万円と大幅に減少しましたが、これは被保険者数の減少によるもので、1人当たりではほぼ前年度並みの25万5,118円となりました。

組合財政を大きく圧迫している納付金については、前年度、前期高齢者納付金の精算のもどりにより大幅減であったため、25年度は2億7,001万円の大幅増となり、保険料収入に占める割合も50.5%となりました。

保健事業につきましては、25年度も疾病予防や健康増進のための事業を可能な限り実施いたしました。

結果、平成25年度の収支差引額は2億1,163万円の黒字に、経常収支差引額においても黒字幅が縮小したものの503万円の黒字で終わることができました。

## ◇収入

単位：千円

保険料収入	1,638,281
国庫負担金収入・その他	471
調整保険料収入	24,295
繰越金	192,560
国庫補助金収入	30
財政調整事業交付金	14,018
雑収入	3,941
収入総額	1,873,596
経常収入	1,642,723

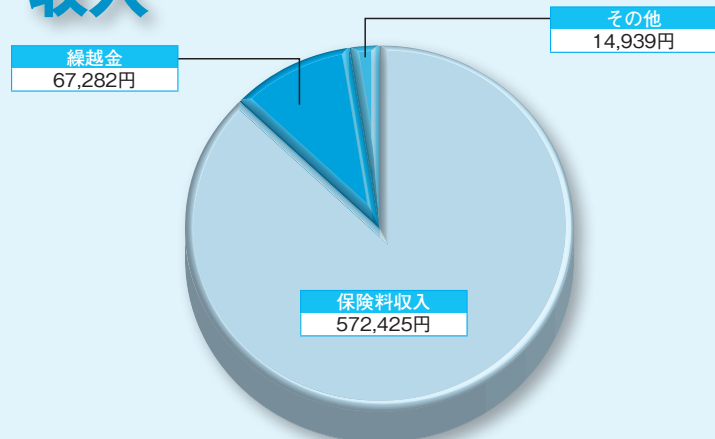
## ◇支出

単位：千円

事務費	46,618
保険給付費	730,149
法定給付費	718,571
付加給付費	11,578
納付金	827,469
前期高齢者納付金	317,728
後期高齢者支援金	424,849
退職者給付拠出金	84,878
老人保健拠出金	14
保健事業費	32,655
財政調整事業拠出金	24,274
連合会費	787
その他	14
支出総額	1,661,966
経常支出	1,637,692
一般勘定収支差引額	211,630
経常収支差引額	5,031

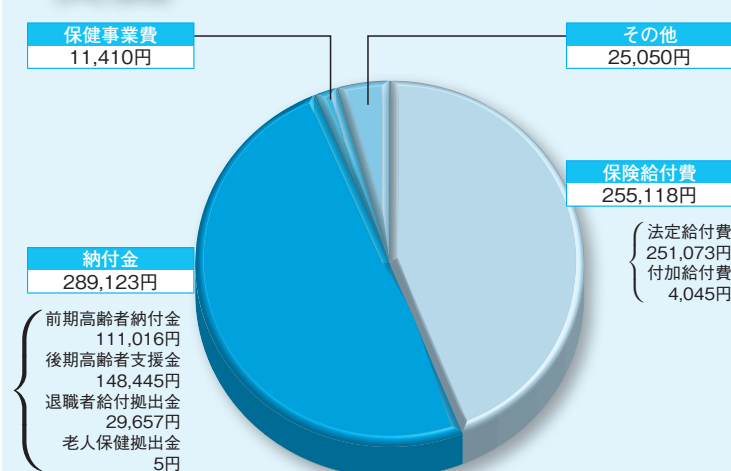
## 1人当たりでみる一般勘定

### 収入



収入総額 654,646円 経常収入 573,977円

### 支出



支出総額 580,701円 経常支出 572,219円

経常収支差引額：1,758円

## 介護勘定（介護保険）

各市区町村が保険者として運営している介護保険の保険料徴収は、健康保険組合が代行して行っています。組合に加入する40歳以上64歳までの方々から、介護保険料として徴収した保険料はそのまま各市町村へ納めています。

平成25年度は1億6,908万円の介護保険収入に対し、介護保険納付金が1億4,534万円でした。今年度の剰余金により、準備金が100%超に回復しました。

### ◇収入

単位：千円

介護保険収入	169,080
繰越金	1337
雑収入	1
合計	170,418

### ◇支出

単位：千円

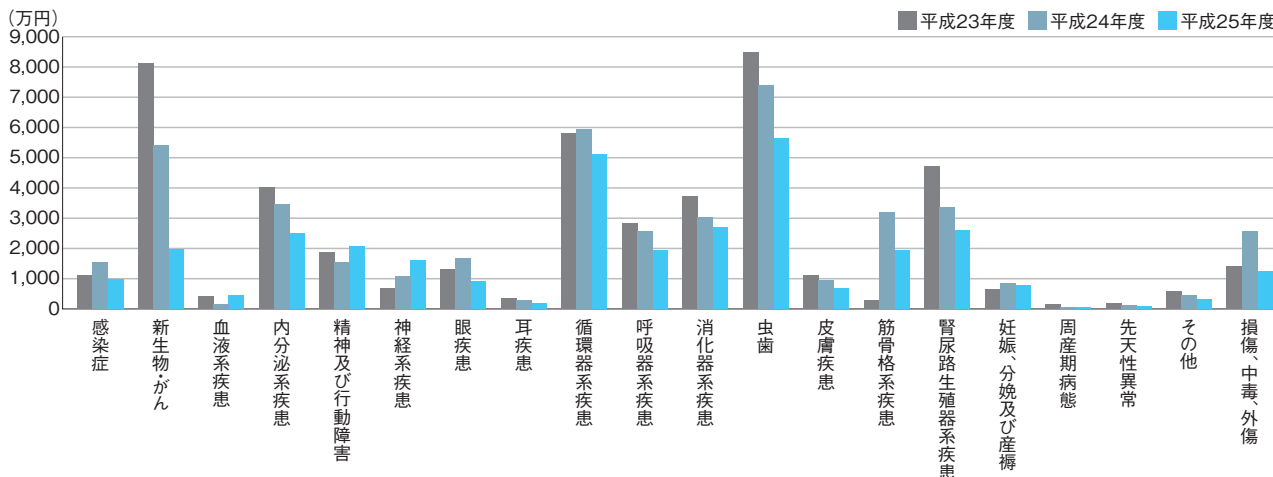
介護納付金	145,345
合計	145,345
介護収支差引額	25,073

# 日本ハム健康保険組合 疾病分類別にみた医療費状況

## 平成25年度のみなさんは健康でしたか？

みなさんがどのような病気で医療費を支払われたのか、平成23年度、24年度、25年度の3年間の推移です。このグラフを参考に、今一度みなさん1人ひとりの健康管理について見直してみてください。また、医療費の適正化にもご協力ください。

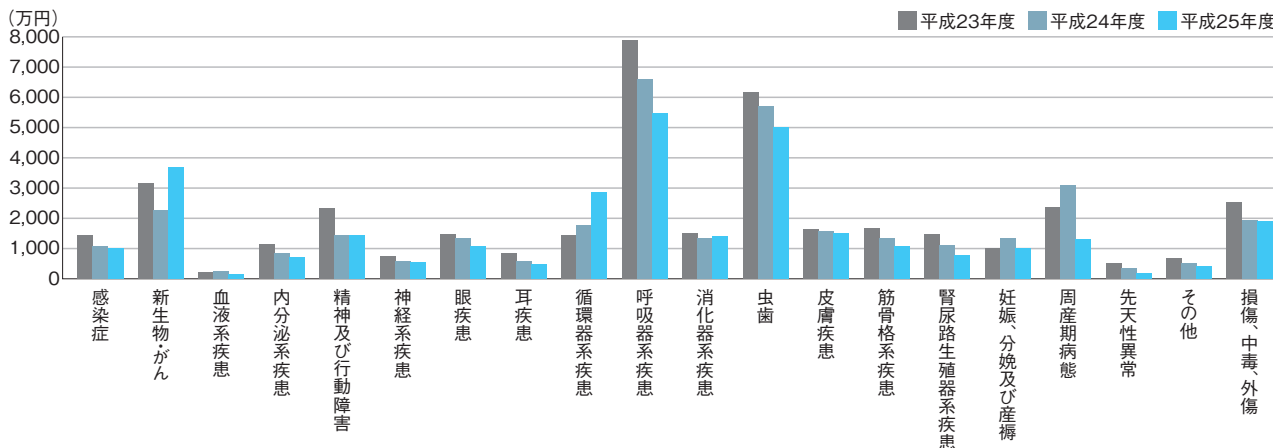
### 疾病分類別グラフ（被保険者）



25年度の医療費は、全体的に減少しました。とくに、新生物・がんにかかる医療費は大幅に減少し、毎年医療費支払いの1位となる虫歯においても、依然1位ではありますが大幅に減少しています。その中で、気になるのが精神および行動障害が再び増加していることです。

心と体の健康はつながっています。心身ともに健康であるためにも適切な休養、睡眠、趣味など、自分にあったリラックス法を見つけるようにしましょう。

### 疾病分類別グラフ（被扶養者）



被扶養者においては、新生物・がんの医療費が増加しています。また、脳梗塞やくも膜下出血といった突然死に直結するような病気を含む循環器系疾患の増加も見逃せません。これらの疾患は動脈硬化によるものです。そしてこの動脈硬化の危険因子は、「高血圧」や「脂質異常」「糖尿病」「肥満」そして「喫煙」なのです。突然の病の攻撃に合わないためにも、ぜひ悪しき生活習慣を改善するようにしましょう。

みなさんの定期健康診断の結果はいかがでしたか？

まずは健診結果を見直してみましょう。異常がなくても、経年変化をチェックして、数値が悪いほうに進んでいる項目があれば、正常範囲内であっても今から生活習慣を改善していきましょう。早めの対処が、いつまでも長く健康を保つ秘訣です。

